

数 学

1年	数学 I
1年	数学A
1年	数学 I・A
2年	数学 II
2年	数学B
2年	数学 I・A演習 II
3年	数学 III
3年	数学演習
3年	数学B①②
3年	数学 I・A演習 III
3年	センター数学 I A

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コース		数学	数学 I	必修	5単位	山口カ・山田奈緒子
教科書	東京書籍「数学 I Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学 I +A」					
授業のねらい	センター試験9割、難関大学に合格できる学力を身につける。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨み、復習を必ず行うこと。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	第1章 数と式 1節 式の計算	中学校の内容を拡張し、複雑な式を計算することができる。			
	5月	2節 実数 3節 1次不等式	実数を理解し、根号を含む式の計算ができる。 不等式の性質を理解し、不等式が解けるようになる。			
	6月	第3章 2次関数 1節 関数とグラフ	関数を理解し、複雑な関数でも平方完成ができるようになる。 平行移動、対称移動を理解し、最大値、最小値を求める。 様々な角度から、2次関数を決定できる。			
	7月					
2 学 期	9月	2節 2次方程式・2次不等式	2次方程式の解法を理解し、グラフを絡めて理解できる。 グラフを用いて、2次不等式を解くことができる。			
	10月	第2章 集合と論証 第4章 図形と計量	集合、命題、論証を理解し、論理的に物事を考えることができる			
	11月	1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張	直角三角形と三角比を理解を理解する。 三角比を拡張し、相互関係、方程式、不等式が解ける。			
	12月					
3 学 期	1月	3節 三角形の応用	正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。			
	2月	第5章 データの分析	データを整理し、代表値を求めることができる。 データと図を利用し、分散、標準偏差、相関を求めることができる			
	3月		数学 I が終了次第、数学Aの整数に入る。			

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コース		数学	数学A	必修	2単位	森俊朗・大野奈々美
教科書	東京書籍「数学A Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学I+A」					
授業のねらい	場合の数、順列、組み合わせの求め方を理解し、確率を求められる。整数の性質を理解し、不定方程式が解ける。図形の性質を理解し、さまざまな問題に適用できる。					
学習上の留意点						
評価方法	教務内規による。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	1-1場合の数	数え上げ、順列、組合せを区別して求められる。			
	5月	1-2確率とその性質	確率を求められる。			
	6月	1-3いろいろな確率	複雑な事象の確率が求められる。			
		2-1約数と倍数	GCM,LCMが求められ、その性質を理解する。			
	7月	2-2ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法を利用できる。			
2 学 期	9月	2-2不定方程式	不定方程式が解ける。			
		2-3整数の性質の利用	n進法を理解できる。			
	10月	3-1三角形の性質	図中の線分の長さや比を求められる。			
	11月	3-2円の性質	円の性質を利用して、角の大きさや線分の長さが求められる。			
3 学 期	12月					
	1月	3-4空間図形	直線と平面の位置関係や多面体の性質を理解できる。			
	2月	総復習				
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コース		数学	数学Ⅰ・A	必修	6単位	山田奈緒子・前田良郎 塚田智雪・大野奈々美 山本駿吾・新井辰典
教科書	東京書籍「数学Ⅰ Standard」 東京書籍「数学A Standard」					
副教材	東京書籍「WRIT 数学Ⅰ+A」					
授業のねらい	それぞれの章の内容に対する新たな方法や考え方を学び、数学の学習をすすめる上での基礎となる役割を担っている。					
学習上の留意点	新しく習った事項は、時間をあけずに問題練習を行い、公式等を活用できるようにする。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	＜数Ⅰ＞1章 数と式 1節 式の計算 ・ 2節 実数		多項式の展開・因数分解、ルート計算ができる。		
	5月	3節 1次不等式 中間考査		1次不等式が解ける。		
	6月	2章 2次関数 1節 2次関数とグラフ		平方完成から頂点の座標を求め、グラフがかける。		
	7月	2節 2次方程式と2次不等式 期末考査		2次関数と2次方程式・2次不等式の関係を理解する。		
2 学 期	9月	＜数A＞1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数		和の法則・積の法則、順列・組合せの意味を理解する。		
	10月	2節 確率とその基本性質 3節 いろいろな確率 ・ 中間考査		余事象、独立な試行、反復試行の確率が求められる。		
	11月	3章 図形の性質 1節 三角形と比 ・ 2節 円の性質		三角形の内外角の2等分線、三心の性質を利用できる。 チェバ、メネラウスの定理、円に関わる性質を活用できる。		
	12月	＜数Ⅰ＞5章 データの分析 1節 データの整理と分析 ・ 期末考		資料に関する整理と分析を学ぶ。データの相関まで進む予定。		
3 学 期	1月	＜数Ⅰ＞4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比		$\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ 、 $\tan \theta$ の意味の理解と相互関係を活用できる。		
	2月	2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用		正弦定理・余弦定理を使いこなせる。		
	3月	＜数A＞2章 整数の性質 I 説 約数と倍数 ・ 学年末考査		自然数の様々な性質を題材として、2つの自然数の関係を考え		

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進理系コース		数学	数学Ⅱ	必修	5単位	遠藤環
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学Ⅱ+B」					
授業のねらい	センター試験に対応できる学力を身につける。					
学習上の留意点	必ず予習をして授業に臨み、その日のうちに復習する。また、問題演習として副教材を利用し、理解度を深める。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	第1章 方程式・式と証明 第1節 整式の乗法と因数分解		分数式の加減乗除ができる。		
	5月	第2節 2次方程式 第3節 高次方程式 第4節 式と証明		複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。 恒等式や証明について理解を深める。		
	6月	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円		座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。		
	7月	第3節 軌跡と領域		軌跡と不等式の領域について理解する。		
2 学 期	9月	第3章 三角関数 第1節 三角関数		一般角を導入して三角関数を定義する。		
	10月	第2節 加法定理		加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。		
	11月	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数		指数関数と対数関数の特徴を理解する。		
	12月	第2節 対数関数		指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。		
3 学 期	1月	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数		微分係数の意味と導関数の定義を理解する。		
	2月	第2節 導関数の応用 第3節 積分法		3次関数のグラフがかけられるようにする。 面積を定積分で求められる。		
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進文系コース		数学	数学Ⅱ	必修	4単位	遠藤環・大野奈々美
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学Ⅱ+B」					
授業のねらい	式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	第1章 方程式・式と証明 第1節 整式の乗法と因数分解	分数式の加減乗除ができる。			
	5月	第2節 2次方程式 第3節 高次方程式 第4節 式と証明	複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。 恒等式や証明について理解を深める。			
	6月	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円	座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。			
	7月	第3節 軌跡と領域	軌跡と不等式の領域について理解する。			
2 学 期	9月	第3章 三角関数 第1節 三角関数	一般角を導入して三角関数を定義する。			
	10月	第2節 加法定理	加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。			
	11月	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数	指数関数と対数関数の特徴を理解する。			
	12月	第2節 対数関数	指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。			
3 学 期	1月	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数	微分係数の意味と導関数の定義を理解する。			
	2月	第2節 導関数の応用 第3節 積分法	3次関数のグラフがかけられるようにする。 面積を定積分で求められる。			
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コース		数学	数学Ⅱ	必修	3単位	五十嵐文彦・塚田智雪 山本駿吾
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Standard」					
副教材	東京書籍「WRIT 数学Ⅱ」					
授業のねらい	式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	第1章 方程式・式と証明 第1節 整式の乗法と因数分解		分数式の加減乗除ができる。		
	5月	第2節 2次方程式 第3節 高次方程式		複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。		
	6月	第4節 式と証明 第2章 図形と方程式		恒等式や証明について理解を深める。		
	7月	第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域		座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。 軌跡と不等式の領域について理解する。		
2 学 期	9月	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数		微分係数の意味と導関数の定義を理解する。		
	10月	第2節 導関数の応用		3次関数のグラフがかけられるようにする。		
		第3節 積分法		面積を定積分で求められる。		
	11月	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数		指数関数と対数関数の特徴を理解する。		
12月	第2節 対数関数		指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。			
3 学 期	1月	第3章 三角関数 第1節 三角関数		一般角を導入して三角関数を定義する。		
	2月	第2節 加法定理		加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。		
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進理系コース		数学	数学B	必修	3単位	森俊朗
教科書	東京書籍「数学B Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学Ⅱ+B」					
授業のねらい	センター試験に対応できる学力を身につける。					
学習上の留意点	必ず予習をして授業に臨み、その日のうちに復習する。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	第2章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル	ベクトルの概念を理解し、平面図形にベクトルを適用する。			
	5月	第2節 ベクトルの応用				
	6月	第3節 空間におけるベクトル	空間図形にベクトルを適用する。			
	7月					
2 学 期	9月	第1章 数列 第1節 数列	数列の一般項や和などの基本事項を学ぶ。			
	10月					
	11月	第2節 漸化式と数学的帰納法	漸化式で表された数列の一般項を求められる。 数学的帰納法を用いて証明ができる。			
	12月					
3 学 期	1月	<数Ⅲ> 関数 ・極限	分数関数や無理関数を理解し、グラフがかけられる。			
	2月	数列の極限 関数の極限	いろいろな数列の極限が求められる。 いろいろな関数の極限が求められる。			
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進文系コース		数学	数学B	選択必修	2単位	稲荷安菜
教科書	東京書籍「数学B Advanced」					
副教材	東京書籍「TOPS 数学Ⅱ+B」					
授業のねらい	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	第2章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル		ベクトルの概念を理解し、平面図形にベクトルを適用する。		
	5月					
	6月	第2節 ベクトルの応用		ベクトルの応用問題等に触れる。		
	7月					
2 学 期	9月	第3節 空間におけるベクトル		空間図形にベクトルを適用する。		
	10月					
	11月	第1章 数列 第1節 数列		数列の一般項や和などの基本事項を学ぶ。		
	12月					
3 学 期	1月	第2節 漸化式と数学的帰納法		漸化式で表された数列の一般項を求められる。 数学的帰納法を用いて証明ができる。		
	2月					
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コース		数学	数学 I A演習 II	選択	2単位	新井辰典
教科書	東京書籍「数学 I Standard」 東京書籍「数学A Standard」					
副教材						
授業のねらい	理数系を目指す進学コースの生徒の理解を深める					
学習上の留意点	演習を主にし、生徒に自発的に学習させる					
評価方法	選択授業であるため、試験は授業内(各学期末)で行う。 また成績は、授業内テスト・授業態度・小テストを総合的に評価。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	<数 I > 第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	平方完成から頂点の座標を求め、グラフがかける。			
	5月					
	6月	第2節 2次方程式と2次不等式	2次関数と2次方程式・2次不等式の関係を理解する。			
	7月					
2 学 期	9月	<数 I > 第3章 図形と計量 第1節 三角比	$\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ 、 $\tan \theta$ の意味の理解と相互関係を活用できる。			
	10月					
	11月	第2節 正弦定理・余弦定理	正弦定理・余弦定理を使いこなせる。			
	12月	↓				
3 学 期	1月	<数A> 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	和の法則・積の法則、順列・組合せの意味を理解する。 余事象、独立な試行、反復試行の確率が求められる。			
	2月					
	3月	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	三角形の内外角の2等分線、五心の性質を利用できる。 チェバ、メネラウスの定理、円に関わる性質を活用できる。			

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進理系コース		数学	数学Ⅲ	必修	5単位	山口力・稲荷安菜 五十嵐文彦
教科書	数研出版「数学Ⅲ」					
副教材	数研出版「サクシード数学Ⅲ」					
授業のねらい	一般入試(日東駒専以上)に対応できる力を身に付ける。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	第4章 極限 第2節 関数の極限		抽象的な極限の概念を理解する。		
	5月	第3章 関数 第5章 微分法		様々な関数を理解し、その関数に応じ微分できるようになる。		
	6月	第6章 微分法の応用 第7章 積分法		様々な関数のグラフが描けるようになる。 様々な関数を積分することができるようになる。		
	7月	第8章 積分法の応用		関数を用い面積や体積を求めることができる。		
2 学 期	9月	第1章 複素数平面 第2章 2次曲線		数Ⅱの複素数をもとにその応用を理解し、定理を自在に扱える。 楕円と双曲線の性質を理解し、応用することができる。		
	10月	入試対策		センター数学を始めとする入試問題を解けるようになる。		
	11月					
	12月					
3 学 期	1月					
	2月					
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者	
3年生 特進理系コース		数学	数学演習	必修	2単位	山口力・稲荷安菜 五十嵐文彦・遠藤環	
教科書	数研出版「数学Ⅲ」						
副教材	数研出版「サクシード数学Ⅲ」						
授業のねらい	一般入試(日東駒専以上)に対応できる力を身に付ける。						
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。						
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。						
学習計画		単元		学習目標			
1 学 期	4月	数学Ⅲの授業と平行して行う。 					
	5月						
	6月						
	7月						
2 学 期	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
3 学 期	1月						
	2月						
	3月						

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進文系コース		数学	数学演習	選択必修	3単位	五十嵐文彦・山本駿吾
教科書						
副教材	数研出版「イニシャルノート数学Ⅰ・A」					
授業のねらい	センター試験数学ⅠAに向けて					
学習上の留意点	文系生徒の為基本的な内容から受験レベルまでを習得させる					
評価方法	授業内テスト、授業の取り組み状況					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	数学ⅠAの基本・標準問題の内容	教科書程度の内容を理解する			
	5月					
	6月					
	7月					
2 学 期	9月	数学ⅠAの応用問題の内容	センター試験レベル・入試問題を理解する			
	10月					
	11月					
	12月					
3 学 期	1月					
	2月					
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コース		数学	数学B①②	選択	4単位	新井辰典
教科書	数研出版「数学B」					
副教材	マセス出版「初めから始める 数学B」					
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・理数系を目指す進学コースの生徒の理解を深める ・AO入試に向けた対策 ・数Bが入試科目に含まれる生徒への対策 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次で学習していない科目であるため、短期間で一からの学習となる。 ・入試対策であるので、なるべく欠席しないこと。 ・小テストを疎かにしないこと。 					
評価方法	選択授業であるため、試験は授業内(各学期末)で行う。 また成績は、授業内テスト・授業態度・小テストを総合的に評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	ベクトルの性質 ベクトルの加減法・内積		<ul style="list-style-type: none"> ・「ベクトル」とは向きと大きさをもつ量であることを理解する。 ・平面上のベクトルの加法や減法を学び、ベクトル独自の演算である「内積」の定義から、それを用いてさまざまな問題を解けるようにする。 ・ベクトルの性質・演算を利用し、位置ベクトルの表し方を学ぶ。 		
	5月	数列の性質 等差数列・等比数列 Σ の性質 演習 ※学期末テスト		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな規則性を持つ数列について調べる。 ・等差数列・等比数列の一般項の公式を使えるようにする。 ・第n項までの和の公式やΣ記号の意味を理解し使えるようにする。 ・帰納的定義を理解し、漸化式を特性方程式を用いて解けるようにする。基礎レベルの問題演習。期末試験は範囲は数学B 		
	6月					
	7月					
2 学 期	9月	1学期の復習 入試レベルへの挑戦 AO入試対策		<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の復習をし、基礎レベルの問題演習を積み重ねる。 ・入試レベルの問題に挑戦し、解き方を学ぶ。 		
	10月	一般入試対策 ※学期末テスト		<ul style="list-style-type: none"> ・数学全般(I・A・II・B)の問題演習に取り組む 		
	11月					
12月			<ul style="list-style-type: none"> ・学期末テスト範囲は数学全般(I・A・II・B) 			
3 学 期	1月	一般入試対策		<ul style="list-style-type: none"> ・数学全般(I・A・II・B)の問題演習に取り組む 		
	2月					
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コース		数学	数学ⅠA演習Ⅲ	選択	2単位	塚田智雪
教科書	数研出版「数学Ⅰ」 数研出版「数学A」					
副教材	高校 これでわかる数学Ⅰ・A 文英堂出版					
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・理数系を目指す進学コースの生徒の理解を深める ・AO入試に向けた対策 ・数ⅠAが入試科目に含まれる生徒への対策 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けた数学ⅠAの演習を積む。 ・入試対策であるので、なるべく欠席しないこと。 ・小テストを疎かにしないこと。 					
評価方法	選択授業であるため、試験は授業内(各学期末)で行う。 また成績は、授業内テスト・授業態度・小テストを総合的に評価。					
学習計画		単元	学習目標			
1 学 期	4月	数学Ⅰ ・数と式 ・2次関数	1学期は数学Ⅰから始める。 基本的な計算をマスターし、応用問題へ取り組む。 sin,cos,tanの復習をし、演習を積む。 データの分析は、センター試験等の実践的な問題で理解を深める。 基礎レベル～入試レベルの問題演習をする。 ・学期末テスト範囲は数学Ⅰ			
	5月					
	6月	数学Ⅰ ・図形と計量 ・データの分析				
	7月	演習 ※学期末テスト				
2 学 期	9月	数学A ・場合の数と確率 ・図形の性質	2学期は数学Aに入る。 場合の数と確率の違いの知識を深める。 ・数学Ⅰ・Aの問題演習に取り組む ・学期末テスト範囲は数学Ⅰ・A			
	10月					
	11月	一般入試対策				
	12月	※学期末テスト				
3 学 期	1月	一般入試対策	・数学Ⅰ・Aの問題演習に取り組む			
	2月					
	3月					

2018年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進文系コース		数学	センター数学 I A	選択	2単位	稲荷安菜
教科書						
副教材						
授業のねらい	センター試験で通用する力を身につけさせる。					
学習上の留意点	演習をメインに行い、生徒の力をつけさせる。また、出題傾向などにも着目して取り組む。					
評価方法	選択授業であるため、試験は授業内(各学期末)で行う。 また成績は、授業内テスト・授業態度・小テストを総合的に評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	4月	数学 I Aの基本・標準問題の内容		教科書程度の内容を理解する		
	5月					
	6月					
	7月					
2 学 期	9月	数学 I Aの応用問題の内容		センター試験レベル・入試問題を理解する		
	10月					
	11月					
	12月					
3 学 期	1月					
	2月					
	3月					